

花火に想いをのせて、 夜空を描く

●感動を届けるために

昨年、佐藤煙火の6代目を継いだ佐藤さん。江戸時代末期から続く花火づくりを受け継ぎながら、今も一人の花火師として現場に立つ。「社長業は正直苦手なんです」と笑うが、会社を率いる傍ら、若手職人の育成や自身の技術・表現力を磨くことにも余念がない。

自身が手がけた代表作の一つが、月の満ち欠けを表現した花火。「残業の帰りに見た月がきれいで、こんな花火をつくりたいと思ったんです」と振り返る。日常の中でふと心を動かされた瞬間が、新たな花火を生み出す。その感性が、人々の記憶に残る夜空を描いている。

●一夜限りの物語をつくる

花火師の仕事は、花火玉を作るだけではない。音楽に合わせて色や高さ、開くタイミングを組み合わせ、花火大会全体を演出する。「お客さんの首を上下左右に動かしたり、次は何が来るんだろうと期待してもらったり。花火は流れが大事なんです」と佐藤さん。その言葉通り、彼にとって花火大会とは、夜空というキャンバスに一つの物語を描く時間なのだ。

「昨年の記憶を超えられるような花火を届けたい」。その想いを胸に、佐藤さんは今日も新たな表現を追い求めている。日常の小さな感動を、何千人、何万人もの記憶に残る大きな感動へと変えていく。その物語は、今年も夜空に打ち上がる。



地域に根付く
「地元のプロ」にインタビュー。
18回目は、「佐藤煙火」
の佐藤さんです。

file no.18
佐藤 晃朗さん
さとう てるお



花火大会ではぜひ
夜空に描かれた
物語も感じてみてください。

佐藤煙火

所 宮城県岩沼市志賀字鳥居原一番地

☎ 0223-23-2901

最寄りIC 仙台空港IC